

米軍関係者住居と地域の関係性について

— 北谷町砂辺区を事例として —

木村 純

(京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程 /

琉球大学国際沖縄研究所 客員研究員 / 琉球大学法文学部 非常勤講師)

崎濱 佳代

(沖縄リハビリテーション福祉学院 非常勤講師)

2010年12月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

本研究では、第 1 に北谷町砂辺区の歴史的・地理的背景を新聞資料や行政資料などの二次資料に当たって調査した。第 2 に、砂辺区を代表する区長へのインタビューを通して、基地外基地としての米軍関係者住居への地域の対応や問題点などを把握した。また、砂辺区長への聞き取りから地域の商店や飲食店などでの生活上の接触がなく、住民はその存在を感じているだけだということが明らかになったため、砂辺区の公共施設である公園での聞き取りを行った。この聞き取りでは、同じ地域に住みながらまったく関係をもてないという実情を明らかにした上で、他地域を対象とした外国人移民研究と比較し、分析を行った。以上のように本研究は、基地問題を抱える地域でのフィールドワークを通して、その地域の公共性のあり方がどのような問題点を孕むかということを把握したものである。

2009 年度次世代研究「米軍関係者住居と地域の関係性について ―北谷町砂辺区を事例として―」（研究代表：木村純）による成果である。

【メンバー】（ ）内は 2009 年度プロジェクト時点

木村 純（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）

崎濱 佳代（沖縄リハビリテーション福祉学院 非常勤講師）